

在セネガル日本国大使館月報
2021年8月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 7月31日、2022年1月23日に予定されている地方選挙の選挙人名簿の改訂が開始された。9月14日に終了予定。ジョム内務大臣は、サンレイの選挙人名簿の改訂管理委員会を訪れ、手続の開始に満足の意を表した。(2日 Le Soleil)
- 19~20日の大雨により、ダカール郊外の複数地域で洪水が発生。特に被害が深刻であったクールマサルやジャマグヌでは政府に対して対策を求めるデモが発生。20日、サル大統領は洪水に関する緊急会合を開き、今後の対策強化と被害者への支援を行う旨述べた。(21・22日 L'Observateur)

(外政)

- 15日、サル保健大臣出席の下、英国政府がCOVAX経由で供与したアストラゼネカ製ワクチン140,160ドーズが到着した。(16日 Le Soleil)
- サル大統領は26日から訪独し、G20アフリカとのコンパクト会議に出席したほか、メルケル独首相、カガメ・ルワンダ大統領、ゲオルギエバIMF総裁、ミシェル欧州理事会議長と会談し、ワクチン現地製造等について協議。28日にはシュタインマイヤー独大統領と会談し、二国間関係につき協議したほか同大統領が近くセネガルを公式訪問することで一致。(26~28日 大統領府 Facebook 及びサル大統領 Twitter、28日付 Le Soleil)

(経済)

- 数週間前から続く砂糖の値上がりや欠品を受けて、財政省は8月30日から10月15日まで、輸入品の砂糖に係る一部税金の課税を停止することを発表した。(31日 Le Quotidien)

ガーボベルデ

- 9日、保健省は定例会見において、カーボベルデにおいてデルタ株が確認された旨や、ワクチン接種資格のある者の48.6%が1回目のワクチンを接種済みである旨を発表した。(9日 保健省)

ガンビア

- 1日、サマテ保健大臣出席の下、米国政府がCOVAX経由で供与したジョンソン・アンド・ジョンソン製ワクチン151,200回分が到着した。サンテ大臣は、現時点で国民の4.2%がワクチン接種を完了していると説明した。(3日 The Point)

ギニアビサウ

- 9日、ギニアビサウ政府は、8日までとしていたコロナに係る警戒宣言を災害宣言へと引き上げ、27日、同宣言を9月10日まで有効とし、夜間外出禁止令や地域間移動制限を含む各種措置を導入した。

- ・文中の「コロナ」とは特別な記載がない限り、「新型コロナウイルス」のことを指すこととする。
- ・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 7月31日、2022年1月23日に予定されている地方選挙の選挙人名簿の改訂が開始された。9月14日に終了予定。ジョム内務大臣は、サンルイの選挙人名簿の改訂管理委員会を訪れ、手続の開始に満足の意を表した。(2日 Le Soleil)
- 19~20日の大雨により、ダカール郊外の複数地域で洪水が発生。特に被害が深刻であったクールマサルやジャマグヌでは政府に対して対策を求めるデモが発生。20日、サル大統領は洪水に関する緊急会合を開き、今後の対策強化と被害者への支援を行う旨述べた。(21・22日 L'Observateur)
- セネガルのコロナワクチン接種キャンペーンコーディネーターによると、7日までに国内で100万人が少なくとも1回接種を受けた。また、約30万人がアストラゼネカ製ワクチンの2回目の接種を待っている。(9日 RFI)
- 23日、ジョム内務大臣は、2022年1月の地方選挙において立候補者が支払う供託金の額を、市議会、県議会ともに1500万FCFAとする旨を発表。金額について、与党は2000万、野党は500万を求めており、野党はこの決定は差別的であると批判した。(24日 L'Observateur)
- 28日、サンルイ沖で58名の移民を乗せた船が転覆し、死者が数十名発生。(30日 L'Observateur)
- 29日、与党APR創設者で外務大臣や国の調停役を務めたアリウン・バダラ・シセ氏が死去。(29日 RFI)

(外政)

二国間関連

- 米国は、UNICEFを通じたセネガルにおけるコロナ対策やワクチン接種普及支援のため、70万米ドルの財政支援を行う。(3日 APS)
- 15日、サール保健大臣出席の下、英国政府がCOVAX経由で供与したアストラゼネカ製ワクチン140,160ドーズが到着した。(16日 Le Soleil)
- 15日、カオラック州においてマリの登録番号のトラックがタクシーに衝突し、4名が死亡。事故を受けてセネガルとマリ両国において互いの国から来たトラックを対象とする暴動が発生し、両国政府が各々住民に事態の沈静化を呼びかけた。(16日 Le Quotidien)
- セネガルを訪問した韓国の崔鍾建外交部第一次官は、17日にサル大統領、18日にホットウ経済大臣とそれぞれ面談し、二国間関係強化や民間投資促進等について協議した。(18・20日 Le Soleil)
- 20日、サール保健大臣や駐セネガル・トルコ大使列席の下、トルコがセネガルに供与した12トン分の医療衛生物資(シノバック製ワクチン5万ドーズを含む。)の受領式が行われた。(21・22日 Le Soleil)
- 米国は、麻薬密売やコロンビア革命軍への支援容疑のため指名手配中で、ダカール・ジガンシヨール間に潜伏中とみられているインジャイ前ギニアビサウ軍参謀長の懸賞金として500万米ドルを懸けると発表した。(21・22日 Le Quotidien)
- 23日、カオラック州で起きたマリ番号のトラックとタクシーの事故を受け、ファイ・インフラ大臣やマリの運輸大臣等、両国の代表団が現地を訪問し、犠牲者に追悼の意を述べた。また、事故を受けて停止していた両国間の交通の即時再開や交通安全対策等について合意した。(24・26日 Le Soleil)
- サル大統領は26日から訪独し、G20アフリカとのコンパクト会議に出席したほか、メルケル独首相、カ

ガメルワンダ大統領、ゲオルギエバIMF総裁、ミシェル欧州理事会議長と会談し、ワクチン現地製造等について協議。28日にはシュタインマイヤー独大統領と会談し、二国間関係につき協議したほか同大統領が近くセネガルを公式訪問することで一致。(26～28日 大統領府 Facebook 及びサル大統領 Twitter、28日付 Le Soleil)

国際情勢・国連機関支援等

- アジ・メルガン・カヌテ BBY(与党連合)副会長は、列国議会同盟(IPU)執行委員会副委員長に任命された。(7・8日 Le Soleil)
- 24日、人道に対する罪で終身刑を課され、1990年からセネガルで服役中であったハブレ前チャド大統領がコロナ感染により死去。遺体は26日にセネガルで埋葬される。(26日 RFI)
- アビジャンで行われた第27回万国郵便大会議において、セネガルは万国郵便連合(UPU)郵便業務理事会の理事国に再選出された。(27日 Le Soleil)

日本関連

- 17日、農業省、セネガル川流域整備開発公社(SAED)及びJICAとの間で、セネガル川流域灌漑地区生産性向上プロジェクトフェーズ2の合同委員会がビデオ会議で行われ、作付率増加等の成果が発表された。2022年に開始予定のフェーズ3の重点目標は、米のバリューチェーン強化である。(21・22日 Le Soleil)
- 24日、パラリンピックが東京で開幕。セネガルからは選手3名が出場予定。(25日 L'Observateur)
- アビジャンで行われた第27回万国郵便大会議において、日本人の目時政彦氏がUPU新事務局長に選出された。(26日 Le Soleil)
- 28日、ビーチサッカーW杯準決勝で日本対セネガル戦が行われ、日本が勝利。セネガルは3位決定戦でスイスに敗れ、4位となった。(28・29日 RFI)

(経済)

経済一般

- 26日、サル観光大臣は、9月2日に運航開始されるエアーセネガルのディアッセーニューヨーク・ワシントン便の準備状況視察のため、ブレーズジャーニュ国際空港を訪問。(26日 APS)
- 数週間前から続く砂糖の値上がりや欠品を受けて、財政省は8月30日から10月15日まで、輸入品の砂糖に係る一部税金の課税を停止することを発表した。(31日 Le Quotidien)

(社会)

- 12日、ダカールのサンダガ市場が解体された。同市場は相次いだ火災を受けて2013年に立ち退きが進められたが、プラトー区長とダカール市長の管轄権争い等を受けて再建設計画は停滞していた。歴史的価値を評価されていた同市場の解体には批判の声も上がった。(14・15日 L'Observateur)

カーボベルデ

- 9日、保健省は定例会見において、カーボベルデにおいてデルタ株が確認された旨や、ワクチン接種資格のある者の48.6%が1回目のワクチンを接種済みである旨を発表した。(9日 保健省)

- 23日、カーボベルデ政府は、公務員及び公的サービスに従事する民間企業の従業員等に対し、14日間ごとのRT-PCR検査又は抗体検査の陰性証明書の取得、又はワクチン接種証明書の取得義務を課すことを決定した。(23日 閣議決定)

ガンビア

- 1日、サマテ保健大臣出席の下、米国政府がCOVAX経由で供与したジョンソン・アンド・ジョンソン製ワクチン151,200ドーズが到着した。サンテ大臣は、現時点で国民の4.2%がワクチン接種を完了していると説明した。(3日 The Point)

ギニアビサウ

- 9日、ギニアビサウ政府は、8日までとしていたコロナに係る警戒宣言を災害宣言へと引き上げ、27日、同宣言を9月10日まで有効とし、夜間外出禁止令や地域間移動制限を含む各種措置を導入した。
- 24日から4日間ブラジルを訪問中のエンバロ大統領は、ボルソナーロ大統領と会談したほか、兵士の日の記念式典に参加した。(24日 Odemocrata)
- 30日、ギニアビサウ政府は、中国政府から供与されたシノファーム製ワクチン10万ドーズを受領。更に20万ドーズも今後2か月以内に受領予定。(30日 Odemocrata)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)